

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月6日
【四半期会計期間】	第115期第2四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	理研コランダム株式会社
【英訳名】	Riken Corundum Company Limited.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 坂爪 康一
【本店の所在の場所】	埼玉県鴻巣市宮前547番地の1
【電話番号】	048(596)4411(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 杉浦 順
【最寄りの連絡場所】	埼玉県鴻巣市宮前547番地の1
【電話番号】	048(596)4411(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 杉浦 順
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第114期 第2四半期連結 累計期間	第115期 第2四半期連結 累計期間	第114期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 1月1日 至平成25年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高(千円)	2,400,590	2,293,228	4,694,293
経常利益(千円)	72,451	103,034	126,717
四半期(当期)純利益(千円)	59,018	70,200	94,646
四半期包括利益又は包括利益(千円)	91,394	253,331	225,591
純資産額(千円)	3,811,513	4,142,925	3,917,608
総資産額(千円)	6,056,651	6,077,735	5,820,351
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	6.35	7.56	10.18
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	62.9	68.2	67.3
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	320,354	176,411	550,372
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	80,427	39,503	155,335
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	19,020	123,219	242,592
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	546,958	471,284	448,666

回次	第114期 第2四半期連結 会計期間	第115期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 6月30日	自平成25年 4月1日 至平成25年 6月30日
1株当たり四半期純利益金額(円)	3.29	5.19

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

## 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融・経済政策の効果や輸出環境の好転等を背景に、景況感に穏やかな改善の動きがみられたものの、急激な円安が輸入原材料価格の上昇や電力料金の値上げ等に波及し、実体経済が回復したと感じるまでには至っておりません。

このような状況下、当社グループの売上については、下げ止まりつつあるものの、主要事業である研磨布紙等製造販売事業の減少を主な要因として、減収となりました。

一方、利益面においては、効率化の一層の推進やセールスマックス等により事業採算性は向上し、増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,293,228千円(前年同期比4.5%減)、営業利益51,622千円(前年同期比67.8%増)、経常利益103,034千円(前年同期比42.2%増)、また当四半期の純利益は70,200千円(前年同期比18.9%増)となりました。

セグメントの概況は、以下のとおりであります。

#### (研磨布紙等製造販売事業)

数年前までの牽引役であった国内ソーラ加工業界向けについては、世界的な供給過剰等による低迷状態から脱したとは言い切れない状況のまま推移しましたが、その他の国内向けについては前年同期比増収となりました。

また、海外向けは、円安寄与はあったものの、新興国需要の伸び悩み等から減収となりました。

このため、売上高全体で前年同期を下回り1,870,107千円(前年同期比3.6%減)となりました。

なお、営業利益は採算性重視の営業展開により8,029千円(前年同期は営業損失5,063千円)となりました。

#### (OA器材部材等製造販売事業)

当社グループは、複写機、ATM、ファクシミリ、印刷機等の事務機器に組み込まれる紙送り用各種ローラー部品を受注生産しております。

当第2四半期連結累計期間については、新興国の成長鈍化による在庫調整の影響を受け、厳しい環境下で推移いたしました。

この結果、売上高は261,121千円(前年同期比12.7%減)となり、営業利益は29,369千円(前年同期比14.6%減)となりました。

#### (不動産賃貸事業)

株式会社ダイエーに賃貸しております理研神谷ビルの賃貸収入による売上高は162,000千円(前年同期と同額)、営業利益は128,057千円(前年同期比2.6%増)となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ257,384千円増加し、6,077,735千円になりました。これは主に、円安による為替換算で生じた持分法適用関連会社の持分相当額の増加により関係会社出資金が129,326千円増加したこと、投資有価証券の時価評価額の増加等により投資その他の資産のその他が109,073千円増加したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ32,067千円増加し、1,934,810千円になりました。これは主に、約定返済が進んだことにより、借入金が61,134千円減少しましたが、リース資産の取得により、その他に含めているリース債務が42,166千円増加したことと株価の回復により投資有価証券の評価換え益等に係る繰延税金負債が41,740千円増加したことによるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ225,317千円増加し、4,142,925千円になりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて22,618千円（5.0%）増加し、471,284千円となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、176,411千円（前年同期は320,354千円の獲得）となりました。

資金増加の要因としては、税金等調整前四半期純利益の計上102,976千円、仕入債務の増加26,227千円、非資金取引である減価償却費81,372千円が主なものであります。

一方、資金減少の要因としては、非資金取引である持分法による投資利益32,415千円が主なものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、39,503千円（前年同期は80,427千円の支出）となりました。

資金減少の要因としては、有形固定資産の取得による支出37,618千円が主なものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、123,219千円（前年同期は19,020千円の調達）となりました。

資金増加の要因としては、長期借入金の増加150,000千円が主なものです。一方、資金減少の要因としては、短期借入金の純減60,000千円、長期借入金の返済による支出151,134千円、社債の償還による支出27,800千円、配当金の支払額27,579千円が主なものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は上場会社であることから、当社の株主は市場での自由な取引を通じて決定されるべきであり、当社の支配権の移転を伴う大規模買付行為に対しても、これに応じるか否かは最終的には個々の株主の皆様の判断・意思に基づくべきものと考えています。

しかしながら、大規模買付行為の中には、会社経営陣との十分な協議・合意のプロセスを経ることなく、また株主への十分な情報開示がなされることなく強行されるもの、あるいはその目的から判断して、企業価値および株主共同の利益を毀損するおそれのあるものなどが含まれる可能性があります。

当社は、このような当社の企業価値および株主共同の利益を毀損するような大規模買付行為をおこなう者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えます。

このような考えから、当社が設定し事前に開示する一定のルール（以下「大規模買付ルール」という）に従って、買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供し、かつ、当社取締役会のための一定の評価期間が経過した後に限り、大規模買付行為を開始できるとする必要があると考えます。

また、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上の観点から、不適切または不十分であるおそれのある大規模買付行為に対して、当社取締役会が、原則として株主の判断を仰ぎつつ、当社が設定し事前に開示する一定の合理的なルールに従って適切と考える方策をとることも、当社株主共同の利益を守るために必要であると考えます。

#### 基本方針の実現に資する取り組み

当社は、当社の経営理念を定めた理研コランダム憲章に基づき、短期的または再現性を欠く成果の追求に陥ることなく、当社ブランドである「地球印ブランド」の更なる強化を図ること、また研磨布紙等製造販売事業とO A 器材部材等製造販売事業との間の緊密な連携を推進し、競争力の源泉である「技術開発・人材開発力、顧客サービス・市場開拓力」の更なる伸張を図ること、加えて株主、顧客、取引先、社員、地域社会等のステークホルダーの皆様との円滑な関係を構築すること等によって、当社の企業価値および株主共同の利益の向上は実現されることとなり、上記 に定める「基本方針」の実現に資するものと考えております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組みおよびその合理性

当社は上記にかかわる取り組みとして、「買収防衛策」を導入しております。この「買収防衛策」においては、取締役会の恣意的な判断を防止するため、大規模買付ルールの設定、防衛措置の内容と実施条件および手続き、特別委員会の設置等に関し詳細に定めております。

#### ( 5 ) 研究開発活動

当第 2 四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、66,286千円であります。

なお、当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,000,000
計	30,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,000,000	10,000,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であ ります。
計	10,000,000	10,000,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	10,000,000	-	500,000	-	89,675

(6) 【大株主の状況】

平成25年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
オカモト株式会社	東京都文京区本郷3-27-12	1,133	11.33
株式会社損保ジャパン	東京都新宿区西新宿1-26-1	920	9.20
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2-1-1	920	9.20
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内1-3-3	461	4.61
小菱商事株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町2-7	400	4.00
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1-2-1	400	4.00
ヒューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町7-3	159	1.59
宇多川 恵造	埼玉県鴻巣市	130	1.30
昭和工業株式会社	埼玉県草加市住吉2-1-6	128	1.28
エムワイ総合企画株式会社	東京都新宿区新宿5-17-5	128	1.28
計	-	4,779	47.79

- (注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式709千株(7.09%)があります。  
2. 株式会社みずほコーポレート銀行は、平成25年7月1日に株式会社みずほ銀行と合併し、株式会社みずほ銀行に商号変更しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 708,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,239,000	9,239	-
単元未満株式	普通株式 53,000	-	1単元(1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	10,000,000	-	-
総株主の議決権	-	9,239	-



【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 理研コランダム(株)	埼玉県鴻巣市 宮前547-1	708,000	-	708,000	7.08
計	-	708,000	-	708,000	7.08

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）および第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	538,666	561,284
受取手形及び売掛金	1 819,698	1 839,683
商品及び製品	698,399	718,759
仕掛品	585,129	548,638
原材料及び貯蔵品	206,002	224,056
その他	129,870	114,171
貸倒引当金	11,188	11,385
流動資産合計	2,966,576	2,995,206
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,488,964	3,490,541
減価償却累計額	2,505,484	2,535,414
建物及び構築物(純額)	983,480	955,127
機械装置及び運搬具	1,661,503	1,675,683
減価償却累計額	1,444,228	1,474,977
機械装置及び運搬具(純額)	217,275	200,706
その他	735,446	811,097
減価償却累計額	356,202	378,001
その他(純額)	379,244	433,096
有形固定資産合計	1,579,999	1,588,929
無形固定資産	37,280	37,305
投資その他の資産		
関係会社出資金	733,621	862,947
その他	505,225	614,298
貸倒引当金	2,350	20,950
投資その他の資産合計	1,236,496	1,456,295
固定資産合計	2,853,775	3,082,529
資産合計	5,820,351	6,077,735

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 689,182	1 705,626
短期借入金	60,000	-
1年内償還予定の社債	111,200	111,200
1年内返済予定の長期借入金	304,268	298,164
未払法人税等	-	22,300
その他	148,703	176,849
流動負債合計	1,313,353	1,314,139
固定負債		
社債	55,400	27,600
長期借入金	216,830	221,800
修繕引当金	54,020	54,563
退職給付引当金	60,587	32,539
役員退職慰労引当金	108,738	116,764
長期預り金	50,000	50,000
資産除去債務	8,692	8,780
その他	35,123	108,625
固定負債合計	589,390	620,671
負債合計	1,902,743	1,934,810
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	98,753	98,753
利益剰余金	3,445,431	3,487,755
自己株式	134,007	134,144
株主資本合計	3,910,177	3,952,364
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,324	53,956
繰延ヘッジ損益	5,338	892
為替換算調整勘定	10,417	135,713
その他の包括利益累計額合計	7,431	190,561
純資産合計	3,917,608	4,142,925
負債純資産合計	5,820,351	6,077,735

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	2,400,590	2,293,228
売上原価	1,820,863	1,711,446
売上総利益	579,727	581,782
販売費及び一般管理費	548,964	530,160
営業利益	30,763	51,622
営業外収益		
受取配当金	12,997	11,333
持分法による投資利益	34,199	32,415
為替差益	3,696	10,618
助成金収入	-	5,470
その他	7,147	5,351
営業外収益合計	58,039	65,187
営業外費用		
支払利息	6,665	5,257
手形売却損	4,006	3,019
売上割引	5,645	5,432
その他	35	67
営業外費用合計	16,351	13,775
経常利益	72,451	103,034
特別利益		
固定資産売却益	279	-
特別利益合計	279	-
特別損失		
固定資産売却損	-	58
固定資産除却損	23	-
特別損失合計	23	58
税金等調整前四半期純利益	72,707	102,976
法人税、住民税及び事業税	12,591	20,224
法人税等調整額	1,098	12,552
法人税等合計	13,689	32,776
少数株主損益調整前四半期純利益	59,018	70,200
四半期純利益	59,018	70,200

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	59,018	70,200
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,440	62,281
繰延ヘッジ損益	1,036	4,446
為替換算調整勘定	932	13,448
持分法適用会社に対する持分相当額	8,040	111,848
その他の包括利益合計	32,376	183,131
四半期包括利益	91,394	253,331
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	91,394	253,331
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	72,707	102,976
減価償却費	87,796	81,372
退職給付引当金の増減額(は減少)	16,187	28,048
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	7,450	8,025
貸倒引当金の増減額(は減少)	5,378	18,797
修繕引当金の増減額(は減少)	3,683	543
受取利息及び受取配当金	13,358	11,466
受取商標使用料	3,767	4,061
支払利息	10,671	8,276
為替差損益(は益)	397	933
持分法による投資損益(は益)	34,199	32,415
有形固定資産売却損益(は益)	279	58
固定資産除却損	23	-
売上債権の増減額(は増加)	57,682	10,241
たな卸資産の増減額(は増加)	112,558	4,486
仕入債務の増減額(は減少)	29,072	26,227
破産更生債権等の増減額(は増加)	92	18,538
その他	8,069	12,435
小計	327,604	157,493
利息及び配当金の受取額	13,384	11,297
利息の支払額	10,905	8,186
商標使用料の受取額	2,507	4,109
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	12,236	11,698
営業活動によるキャッシュ・フロー	320,354	176,411
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	80,278	37,618
有形固定資産の売却による収入	420	92
無形固定資産の取得による支出	1,424	941
貸付けによる支出	600	2,000
貸付金の回収による収入	1,455	964
投資活動によるキャッシュ・フロー	80,427	39,503
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	106,000	60,000
長期借入れによる収入	300,000	150,000
長期借入金の返済による支出	142,445	151,134
社債の償還による支出	-	27,800
自己株式の取得による支出	-	137
配当金の支払額	27,636	27,579
ファイナンス・リース債務の返済による支出	4,899	6,569
財務活動によるキャッシュ・フロー	19,020	123,219
現金及び現金同等物に係る換算差額	215	8,929
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	259,162	22,618
現金及び現金同等物の期首残高	287,796	448,666
現金及び現金同等物の四半期末残高	546,958	471,284

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関休業日にあたりましたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第2四半期連結会計期間末日満期手形は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	6,446千円	1,993千円
支払手形	4,417	16,172

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形割引高	265,534千円	233,815千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
給料及び手当	155,263千円	147,829千円
退職給付費用	7,450	2,175
役員退職慰労引当金繰入額	7,450	8,025
貸倒引当金繰入額	5,378	19,012

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	636,958千円	561,284千円
預入期間が3か月を超える定期預金	90,000	90,000
現金及び現金同等物	546,958	471,284



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月27日 定時株主総会	普通株式	27,881	3	平成23年12月31日	平成24年3月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年8月10日 取締役会	普通株式	27,881	3	平成24年6月30日	平成24年9月18日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月26日 定時株主総会	普通株式	27,876	3	平成24年12月31日	平成25年3月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月5日 取締役会	普通株式	27,874	3	平成25年6月30日	平成25年9月17日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,939,619	298,971	162,000	2,400,590	-	2,400,590
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,939,619	298,971	162,000	2,400,590	-	2,400,590
セグメント利益又は損失( )	5,063	34,378	124,772	154,087	123,324	30,763

(注) 1. セグメント利益の調整額 123,324千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	研磨布紙等 製造販売事業	OA器材部材等 製造販売事業	不動産 賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,870,107	261,121	162,000	2,293,228	-	2,293,228
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,870,107	261,121	162,000	2,293,228	-	2,293,228
セグメント利益	8,029	29,369	128,057	165,455	113,833	51,622

(注) 1. セグメント利益の調整額 113,833千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に連結財務諸表提出会社本社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	6円35銭	7円56銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	59,018	70,200
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	59,018	70,200
普通株式の期中平均株式数(株)	9,293,663	9,291,522

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

平成25年8月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ)配当金の総額 27,874千円

(ロ) 1株当たりの金額 3円00銭

(ハ)支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年9月17日

(注) 平成25年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月5日

理研コランダム株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 杉本 茂次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大野 開彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている理研コランダム株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、理研コランダム株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。